

『輝け雪』のまち

ぬまた町

みんなの議会

2025年 8 月
第102号



部活動出発前に一礼!!



中学校部活動の地域移行に向け
他中学校との合同練習のため
送迎バスによる混在乗車が始まる

- P 2 第2回定例会 主な議案
- P 4 町政を問う 5名(5件)が一般質問
- P 6 シリーズ検証「一般質問のその後を追う」
- P 7 議会の動き
- P 10 特集：JR留萌本線石狩沼田駅から恵比島方面を訪ねて
- P 12 みんなの広場：中学校部活動地域移行とは



沼田町議会 検索

令和7年 第2回 定例会

6月17日～18日

令和7年第2回定例会が上記の日程で開催され、町長の一般行政報告および教育長の教育行政報告の後、5名の議員が一般質問を行いました。

その後、6件の議案と補正予算について審議し、会期を1日残して閉会となりました。

上程されたおもな議案

以下の議案について、全会一致で承認されました。

■**沼田町過疎地持続的発展市町村計画の変更について**
上記計画に「中山間携帯電波不感地域通信対策事業」を追加するものです。

■**条例の一部改正**
町職員の勤務時間・休暇等に関する条例、国民健康保険税条例、家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正しました。

■**恵比島揚水機場第1号整備工事の請負契約について**
契約金額 5500万円

■**除雪トラック購入契約について**
契約金額 5739万円

久しぶりの傍聴。やはり議場で聞くのが一番ですね。
(80代男性)

質問者と町長のやりとりでは、緊張感の中にも中身の濃い議論がなされているところがとても印象に残りました。(60代男性)

議員も町長も熱いですね。子ども誰でも通園制度の質問を聞いて、子どもと保育園にはメリットが少ないと思いました。(60代女性)

今回の傍聴者は7名でした

沼田町議会の定例会はライブ配信で！

スマホやパソコンのYouTubeを使って見るができます。生中継なので議会の開会中にぜひご覧ください。もちろん議場で傍聴していただくと一番臨場感がありますが、役場ふれあいの1階ロビーにあるテレビでも視聴することができます。

YouTube再生回数
190回でした

令和6年度補正予算

一般会計

■**農業振興基金積立金**
中山間地域等直接支払制度推進協議会
会計清算金（第5期対策分） 2512万円増

■**減債基金積立金**
2520万円増

令和6年度一般会計の予算を5049万円を追加し、総額を77億709万円とする補正予算の専決処分を承認しました。以下は主な事業となります。

令和7年度補正予算

一般会計

令和7年度一般会計の予算を7億7732万円追加し、総額を72億7732万円とする補正予算を承認しました。以下は主な事業となります。

■総務管理費

ふるさと納税に関わる通信運搬費 587万円増

■ふるさと納税関連費

返礼品、通信運搬費、手数料 3億5000万円増

■ふるさとづくり基金

指定寄付積立金 3億5000万円増

■観光振興費

町のPRをするための広告代など 2000万円増

■道北バス沼田深川線運行準備補助金

深川市、秩父別町、沼田町によるバス2台分の購入代金補助 3064万円

■スコーレセンター施設管理委託料

令和6年度ほたる館改修工事費の繰越分 456万円増

■定額減税補足給付金不足額給付事業

551万円

■子育て支援費

令和6年度地域子育て支援センター委託料 839万円増



特別会計

和風園、介護保険、国民健康保険、後期高齢者医療、公共上水道の各特別会計の補正予算を承認しました。



臨時会

4月25日に第3回臨時会が開催されました。

■専決処分の承認を求めることについて

1. 町税条例の一部を改正する条例
2. 沼田町国民健康保険税条例の一部を改正する条例

■町道沼田幹線源次橋補修工事の請負について

契約金額 1億6280万円



補修中の源次橋

町長、教育長への

一般質問



上野 敏夫 議員

農業の秋作業負担軽減策を

必要な技術は何かを考えていく



横山 茂 町長

上野

町長は、町政執行方針の中でスマート農業は農業生産コストの削減や、環境負荷低減など地域農業の課題解決に重要な方策だと述べているが、沼田町農業の将来とスマート農業をどのように考えているか。

秋作業の負担軽減策として、籾乾燥機の遠隔監視システムの導入を進めてはどうか。

現在主流になっている籾の乾燥機



町長

スマート農業の導入、普及によって地域の財産である技術やノウハウをデータ化し、蓄積することで優れた技術の継承が行えるようになると期待します。

近い将来には農業機械の遠隔操作も普及する時代が来ると予測し、様々なことに挑戦して沼田農業の持続的発展を目指す一步を踏み出す時期ととらえます。

籾乾燥機の遠隔監視システムは、新たな技術による労働力削減策と考えますが、各経営体により必要とするスマート技術が違い、多額の経費も必要となるので、本町のスマート農業研究会で議論していただき、必要な制度は何かを考えていきます。



伊藤 淳 議員

沼田町食料貯蔵流通基地構想をどう実現するのか

食料備蓄システム構築を強く国に求めている



横山 茂 町長

伊藤

米価格の高騰による政府の備蓄米放出には、食料安全保障の観点から危機感を感じる。

今回の米騒動の中で、米の備蓄に対する国民の意識がいまだかつてないほど高まっている。雪を利用した米貯蔵施設の30年間の実績を活かし、災害時の食の安心を提供するために、沼田町は大規模備蓄基地構想をどのように実現していくのか聞きたい。

さらには、国への要望だけではなく、備蓄米に関心を持つ企業との連携も視野に入れるべきではないかと思うがどうか。

町長

昨今の米の需給状況から食料安全保障の重要

性が再認識されており、雪を利用した食料貯蔵流通基地構想は、国の基本法にも合致しています。

関係団体や北海道との連携を強化し、流通型食料備蓄システムの構築や備蓄量の増強を国に強く求めています。

企業との連携においても、企業誘致や既存企業との連携を進めており、保存用加工食品を製造している企業とも協議をしているところです。



雪の科学館に貯蔵されている平成13年産米



篠原 暁 議員

利用者の視点に立った「子ども誰でも通園制度」を

子どもが安心できる環境づくりを検討する



横山 茂 町長

篠原

令和8年度から、生後半年から2歳までのすべての子どもが親の就労要件に関わらず時間単位で保育を利用できる「子ども誰でも通園制度」が始まる。

生後半年の乳児は人見知りの時期であり、保育中の重大事故も起きやすい。担当する保育士の配置基準がゆるく、初めて保育を利用する子どもの不安に対応するために、既存の子どもの保育の質が保てなくなる心配もある。

町はこの制度にどのように対応するのか。

町長

保育の質を保つために、初回利用前に保護者との面談や親子通園の導入などにより、安心して過ごせる環境づくりを検討しています。

今後、保育士の研修を通じて必要な知識や技術を習得する機会を設けます。人材不足の課題に対しては働きやすい環境づくりと業務の効率化で対応します。



久保 元宏 議員

外国人材活用と国際交流をどう進めるのか

久保

教育長へ アイルランド出身のデイビット・リンチ先生を、高校や大学進学に向けての英語力の充実と、姉妹都市などとの国際交流にどのように活用するのか。

町長へ 経済交流を通じて姉妹都市との関係を深め、持続可能にするための方策は何か。

2027年度からの育成就労制度開始により、自治体間で外国人材確保競争が起きると予想される。沼田町が外国人材から選ばれるために準備している事業は何か。

外国人材の受け入れに向けて現地での交流など、準備状況はどうなっているか。

教育長

リンチ先生のおもな役割は、受験対策中心で



横山 茂 町長

福祉分野での人材確保を進める

国際社会で活躍できる人材を育成する



三浦 剛 教育長

はなく学校や社会教育で生きた英語を教えることにあります。また、姉妹都市との国際交流にも通訳として同行します。

町長

カナダのポートハーディや台湾の瑞穂郷との友好関係があり、観光客誘致をメインにした経済交流が可能なのではないかと考えます。

外国人材から選ばれるためには、地域おこし協力隊の募集枠を使い、福祉人材限定で外国人の就労先を確保する準備を進めています。

外国人材の受け入れに当たっては、生活支援や相談相手の確保など孤立化を防ぐための受け入れ体制づくりが重要だと考えます。



大沼 恒雄 議員

SAF(持続可能な航空燃料)の推進を

G X 推進策を総合的に検討する



横山 茂 町長

大沼

S A F は、CO₂排出量を削減するためのもので、特に航空業界での活用が期待される。沼田町の特性に合わせて、農業廃棄物や町有林の間伐材の活用、家庭からの廃食用油回収システムを構築し、カーボンニュートラルに貢献することはできないか。

実施に当たっては、沼田町単独ではなく広域での連携のために町長がリーダーシップを発揮することが重要と考えるがどうか。

町長

沼田町での廃食用油回収量では、S A F 製造プラントの規模には遠く及びません。間伐材からの燃料製造量も少なく、農業廃棄物の収集・運搬コストなど課題もあり、現時点では現実的

ではないためS A Fに固執せずG X 推進策を総合的に検討します。

製造プラントの単独整備は判断できませんが、回収した廃食用油を都市部に運搬して商品化する可能性も視野に入れ、G X 推進担当者に検討させます。



シリーズ検証

第4弾

一般質問のその後を追う

議員が定例会ごとに行う一般質問は、その後どうなったのか。シリーズ第4弾は令和6年第1回定例会における大沼議員の一般質問です。



問 自治体DXの取り組みは

国がデジタル技術の利用で住民生活向上を目指す中、町が取り組むための人材の育成や職員の負担をどのように考えるか。

答 本町に見合ったDX推進に取り組む

DX導入により、住民サービス向上などメリットもあると考えられますが、コストと住民サービスのバランスを考え、本町に見合った形で進めたいと考えます。

★その後の対応（総務財政課）

行政の事務の効率化や住民サービス向上等に向け必要となるデジタル技術を活用するためには、専門的な知識を持つ企業・人材の協力が不可欠であります。

D X 推進を図るための手法としては、外部人材の確保、或いは専門的な知識を持つ企業に協力してもらうなど様々な形態が考えられますが、そういったことも含め現在関連する企業等との協議を進めているところであります。

いずれにしても、本町の実情・環境に見合った推進方法を考慮した中で、速やかにD X 化が図られるよう業務を進めてまいります。

議員研修会

例年7月は研修が続きます。今年も下記の研修会に参加し、議員としての研鑽を深めてきました。

・北海道町村議会議員研修会

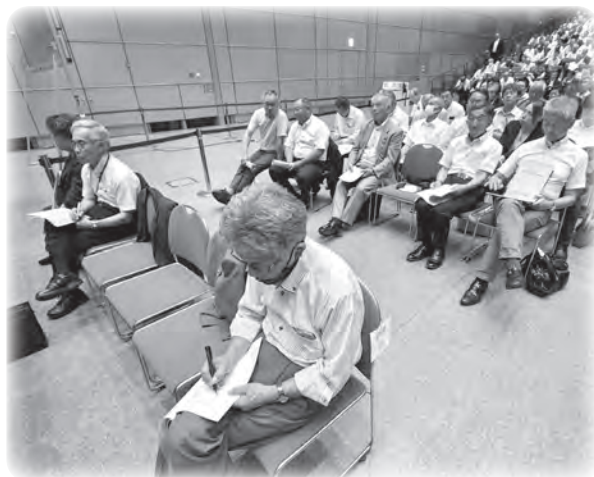
7月8日 札幌市コンベンションセンターにて開催

講師 西南学院大学法学部 教授 勢一^{せいいち} 智子^{ともこ} 氏

「地方議会における議員の多彩化に向けて
～地域社会の「鏡」として議会を考える～」

講師 人口戦略会議 副議長 増田^{ますだ} 寛也^{ひろや} 氏

「人口減少社会を生き抜くために」



・空知町村議会議長会研修会

7月16日 妹背牛町総合体育館にて開催

講師 株式会社ダイゼン 代表取締役社長 柴田^{しばた} 貢^{みつぐ} 氏

「『DZ』マート地方部出店への取り組みについて」

講師 みずほ銀行旭川支店渉外課 結城^{ゆうき} 郁哉^{いくや} 氏

「公設民営スーパー等（ライドシェア事業を含む）
展開について」



・北空知議会議長連絡協議会議員研修会

7月25日 北竜町公民館にて開催

講師 公益財団法人はまなす財団

専務理事 谷^{たに} 一之^{かずゆき} 氏

「地域課題解決に向けて議会が果たす役割」

退任議員との交流

7月31日 退任議員と現職でパークゴルフを行い、懇親会にて交流をしています。

暑い中での熱い戦いはまたもや退任議員会の圧倒的勝利で終わりました。

・優勝チーム 退任議員会

・個人成績 1位 津川^{つがわ} 均^{ひとし} さん
2位 山木^{やまき} 一男^{かずお} さん
3位 杉本^{すぎもと} 邦雄^{くにお} さん



優勝杯を手にした津川さん

議会改革特別委員会

町民とつながる議会を目指して



議会改革調査特別委員会では、議会基本条例の検証を実施しつつ、議会の活性化に向けて議論を重ねています。議会運営や活動の年間スケジュールの公表や議会の政策形成サイクルの在り方を検討しながら、議会の「見える化」を図っていきます。



政策サイクルとは

議会における政策サイクルとは、議会が住民の意見を吸い上げ、議論を通じて政策を立案・決定し、その実行を監視・評価する一連のプロセスを指します。具体的には、住民の声の収集、政策研究、政策立案、議会での審議、執行機関による政策実行、そして政策評価という段階を経て再び住民の声の収集へと戻る循環を繰り返します、このサイクルを通じて、議会は住民のニーズに応じた政策を効果的に実現し、住民福祉の向上を目指します。

6月24日にモニター会議を行いました。令和7年度第2回定例会の一般質問に対する評価や議会改革の取り組み状況について意見交換を行いました。

今後、議会カフェ、ナイター議会やこども議会の開催を予定していること。議会として、町民の意見を踏まえ、所管事務調査及び議員間の討議を通じて、議会の活性化を進める旨の説明により議会モニターとの情報共有を図りました。

議会モニター募集中

議会に対し皆様のご意見、ご提案をお聞かせください。

主な内容は

- ・ 定例会や委員会などの傍聴と評価
- ・ 議会広報誌やホームページなど情報公開についての評価
- ・ 議員との意見交換など

ご参加をお待ちしています。

お申込み、詳しい内容のお問い合わせは
沼田町議会 事務局

(0164) 35-2117まで



モニター会議の様子

常任委員会の活動

総務民教建設常任委員会 所管事務調査項目「平和の文化の推進」

総務民教建設常任委員会では、昨年度の所管事務調査項目であった「平和の文化の伝承」に続き、今年度は「平和の文化の推進」として、引き続き平和の問題に取り組んでいます。5月30日には、和風園において2回目となる懇談会を開催し、前回に引き続き戦争体験の聞き取りを行いました。

現在も世界では紛争が絶えないことについて、子どもたちが犠牲になっていると心を痛め、戦争のない日本が続いてほしいという願いを語っていました。



グループに分かれて聞き取り中



参加してくれたみなさんと一緒に記念撮影

産業福祉常任委員会

所管事務調査項目「高齢者福祉施設の将来像について」

4月30日に本町の特別養護老人ホーム「旭寿園」と増毛町の「明和園」を視察しました。

現在の旭寿園は昭和60年に開設され約40年経過していますが、園内も清潔に管理され利用者の方に寄り添う施設運営に尽力されていました。

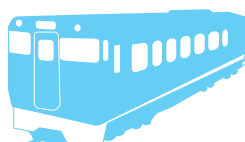
増毛町の明和園は令和4年に開設され、養護（定員30名）と特養（定員40名）が一体となる建物で運営されており、増毛町社会福祉協議会が運営する施設です。



改築に至る経緯の説明



明和園前にて



JR留萌本線廃線跡地を訪ねて

取材協力：地域おこし協力隊・阿部 武大さん^{あべ たけひろ}

留萌本線は令和8年3月31日で廃線されます。石狩沼田駅から恵比島駅に向かっては、踏切やケーブルが撤去され、各所にバリケードがなされ線路だけがひっそりと残されています。



カウントダウンが表示されている石狩沼田駅



13:43着 4人が下車



駅横にはうづぐ食堂
キッチンカーでの駅そばの販売



緑町で途切れる鉄路



今は草で覆われた線路



旧真布駅



旧恵比島駅（明日萌駅）



すずらんでの
撮影現場の様
子が思い起こ
されます



中村旅館



中村旅館の説明をする阿部さん（左）
右2人は新潟県から来られた廃線マニアの方々



一室には故熊野勝太さんの点描画も展示

廃線跡地を訪ねていますが、全線廃線は来年の3月末です、観光資源としての価値や跡地利用の課題はこれからです。

みんなの広場

中学校部活動の地域移行についてインタビュー紹介

現在の部活動と送迎状況について お聞きしました

西木教頭：「バレーボール部は雨竜中と合同で6名が、バスケットボール部は妹背牛中、秩父別中と3校合同で、野球は5町の中学校が合同チームを組んでいます。各校持ち回りで練習場所を変えますので、送迎



用のバスでは各部活動生徒が混在して目的地の学校に送り届けます。帰りは保護者の送迎で帰宅となります。広域（北空知管内）での部活動により生徒数が少なくてできなかった部活動の選択肢も広がりますが、練習場所と指導者の確保、移動手段が課題でした。日ごとに練習場所も回して行くこともあり各校との調整が必用で生徒のバス便乗の把握をしています。沼田開発公社（自動車学校）が業務請負して運行しています」

上野快さん（中1バスケ）「快適です。助かります」

矢野桜誠さん（中3バスケ）「親の都合に左右されない。とても便利だと思います」

松尾泰祐さん（中3野球）「乗り心地も良いです」

山下芽夏さん（中3バレー）「親が仕事の途中で来なくてもいいので良いと思います」

松尾敦史さん（保護者）「町単体のチームが成り立たない今、共働きで近隣町まで送迎ができなく部活動をあきらめた子どもたちもいました。今は行きだけです、送迎していただけるのは大変助かります。この事業が小学生少年団活動にも拡大できれば、少子化・スポーツ離れの対策にもなるのではと思います。小学生から始めないと他町との差ができてしまい中学生から入りづらくなります」



6月・7月と沼田でも暑い日が続き、すっかり夏バテになりました。室内外の気温変化に対応しきれず倦怠感が増し、食欲不振や寝不足などが夏バテの主な原因です。予防のためにと「土用の丑の日」に鰻や、「その日の難逃れ」と梅干しを食べたりしますが、先人たちがその効能を長きにわたる観察と経験で得た知恵として活用していたことに感心してしまいます。すぐにSNSなどで夏バテ対策など検索できる現代人の便利さと知識の薄さを少し恥じながら、毎朝大好きな梅干しを食べています。みなさんも体調に留意して過ごしてください。

広報特別委員

篠原 暁 三浦実希
畑地 誉 伊藤 淳